

メディアリリース

平成 28 年 8 月 19 日

日豪友好協力基本条約署名 40 周年記念の外務大臣表彰

8 月 19 日、日本外務省は 1976 年に日豪間で署名された「日豪友好協力基本条約」の署名 40 周年を記念し、外務大臣表彰の授与を発表しました。ニューサウスウェールズ州では、以下の個人 10 名及び 2 団体が表彰されました。

外務大臣表彰は、日本と諸外国との友好親善関係の増進に大きな功績のあった個人および団体について、その功績をたたえることを目的としています。

個人（姓の 50 音順）

（1）五十川明（服飾デザイナー）

1993 年にシドニーに「akira」レーベルのブティックを開店して以来、ファッションを通じた日豪交流に大きく貢献されている。同氏の日本の伝統的要素を取り入れたデザインは、豪州のみならず世界のファッションに大きな影響を与えている。

（2）イアン・ウィリアムス（豪日経済委員会副会長）

1995 年より弁護士として日本企業の豪州進出をサポートされている。ラグビー選手としても、豪州及び日本のそれぞれのナショナルチームで活躍され、日豪間のスポーツ交流にも貢献されてきた他、豪日交流基金の理事も務められた。2006 年からは豪日経済委員会の副会長としても日豪経済関係の強化に貢献されている。

（3）小田村さつき（箏演奏家 オーストラリア箏ミュージックインステチュート代表）

1988 年に沢井箏曲院の豪州支部設立ため渡豪され、2007 年にはオーストラリア箏インステチュートを設立し箏の普及及び箏曲家の育成に従事し、日豪間の音楽交流に貢献されている。またオーケストラや他のジャンルを超えた他楽器奏者と積極的に共演されるなど箏の魅力の普及にも努められている。

（4）イアン・クリフォース（和太鼓奏者、タイコーズ創設者）

1997 年に和太鼓グループのタイコーズをライリー・リー氏とともに創設され、和太鼓の演奏と和太鼓講座の開催を通じて、豪州における和太鼓の紹介および普及に貢献されている。タイコーズの演奏は豪州のみならず世界各国でも高く評価されている。

(5) 後藤和子 (Australian Chamber Orchestra (ACO)-オーストラリア室内合奏団バイオリニスト)

1998年にACO-オーストラリア室内合奏団のバイオリニストに就任されて以来、日本人音楽家として日豪間の音楽交流の促進に貢献されている。また、同合奏団では若手演奏家の育成の指導者として、豪州の若手演奏家の育成にも貢献されている。

(6) デビッド・ジェイコブス (豪日経済委員会CEO)

シドニー大学卒業後、1974年に豪日経済研究所のエコノミストに就任されて以来、同研究所所長、日豪間のビジネスコンサルタント、豪日経済委員会CEOの職責を通じ、長年にわたり日豪経済関係の強化に貢献されてきている。また、NSW 豪日協会会長及び副会長も歴任されている。

(7) 小路光男 (陶芸家)

1978年から2007年まで約30年間にわたり、シドニー大学美術学校において陶芸の講師を務められ、豪州における日本の陶芸の普及及び指導に尽力されている。同氏の作品は、豪州国立美術館をはじめとした豪州各地の美術館に所蔵されており、陶芸を通じた日豪文化交流に大きく貢献されている。

(8) トムソン木下千尋 (ニューサウスウェールズ大学教授)

1993年にニューサウスウェールズ大学に着任されて以来、日本語の指導及び大学院生の育成に尽力され、豪州における日本語教育・日本研究の普及に貢献されている。同大学では、日本研究学科長及び現代言語学部長等を歴任され、また、豪州日本研究学会会長も務められた。

(9) フィリップ・ミッチェル (NSW豪日協会会長)

2009年にNSW 豪日協会会長に就任して以来、数多くの日豪交流行事の開催に尽力され、両国の友好関係の強化および相互理解の促進に貢献されている。また、1984年に弁護士としての活動を開始され、以来日豪間のビジネスの促進を支援されている。

(10) ライリー・リー (尺八奏者、タイコーズ創設者)

1980年に外国人として初めて尺八の大師範の称号を獲得された。1996年にシドニーでAustralian Shakuhachi Society を創設され、豪州及び世界での尺八の紹介および普及を通じた日本伝統芸能の振興に貢献されている。1997年にはイアン・クリワース氏とともに和太鼓グループのタイコーズを創設された。

団体 (50 音順)

(1) 茶道裏千家淡交会シドニー協会

1973年に(一般社団法人)茶道裏千家淡交会のシドニー支部として設立されて以来、茶道を通じた日本文化の振興及び日豪間の友好親善に貢献されている。毎年シドニー王立植物園で茶会を主催するなどシドニー市民に茶道に触れる機会を提供されている他、ニューキャッスル、キャンベラ、ブルーマウンテン、ダボ等でも同様な機会を提供されている。

(2) SMASH (スマッシュ)

ポップカルチャーイベント「SMASH!」を主催され、日本のポップカルチャーの紹介と普及に尽力されている。「SMASH!」は2007年より毎年開催され、2015年には約15,000人が参加するイベントとなっている。これは、豪州の若者の日本についての関心を喚起するとともに、日本語学習へのきっかけにもなっている。

お問い合わせ：在日本国総領事館 玉光慎一 (たまみつ しんいち)

電話：(02) 9250-1000

Email: shinichi.tamamitsu@mofa.go.jp